

# 小泉総理よ、 政策転換を恐れてはいけない

亀井静香  
衆議院議員



かめいしずか

1936年生まれ、広島県出身。1960年東京大学経済学部卒業。1962年に警察庁入庁、1977年警察庁退庁。1979年より衆議院議員。運輸政務次官、運輸大臣、建設大臣等を経て、1999年より党政務調査会長。

## このままいけば景気はつるべ落としになる

**工藤** 田中眞紀子前外相の更迭問題で、小泉内閣の支持率が一気に下落し、小泉改革の先行き懸念からマーケットはトリプル安の状況を見せ始めています。まず、今現在のこの局面をどう見ているのかという点からうかがいたいと思います。

**亀井** このまま行けば、経済はつるべ落としの状況になるでしょう。ある意味でそれは当たり前前のことで、小泉さんが言われていたことが現実化しているだけ。何もびっくりすることはない。これから2、3年はマイナス成長だ、景気は悪くなる、みんなで痛みを分かち合って行こうと（昨年4月に）本人が自民党総裁選に出たときから言っておられたんだから。国民も80%を超える内閣支持率で、小泉さんに拍手喝采したのだから、今景気が悪いからといって、小泉さんをけしからんと言うのは筋合い。別に小泉さんをかばうわけではないけどね。

**工藤** 経済の問題はまた後からうかがうとして、とりあえず田中前外相の更迭については、どう見えていますか。

**亀井** あれは、相撲で言えば物言いがついたようなものでしょう。どっちが勝ったのか判然としないから、物言いになった。それなのに、勝敗の判定をしないで、両方とも土俵を降りろと言ったわけだ。そうしたら観客からブーイングが起こるのは当たり前の話ですよ。

**工藤** 今回の問題では外務省と鈴木宗男さんの関係がいろいろと批判されています。閣外にいる鈴木さんが外務省の官僚に指図するのはおかしいんじゃないかと。

**亀井** 別におかしくはない。何もかも官僚に任せていたら、官僚独裁国家になってしまう。それじゃ、日本は滅びてしまいますよ。官僚独裁にならないように、われわれ国会議員が国民から選ばれているわけです。

**工藤** 外務省自身についても、本当に外交をやっているのか、いったい何をやっているんだという批判があります。

**亀井** 確かに、今の外務省は外交をやっていないと私も思う。大国に対しては頭を下げ、小国に対しては威張り散らして、こんなのは外交じゃないですよ。彼らは閣僚の会談や国

際会議の場を設定しているだけで、中身の外交をやっていない。実際やっているのは、各省庁の意向を反映した縦割りの外交。たとえば、中国に対するセーフティガード発令の問題だって、農林水産省だけじゃなくて、経済産業省も関係してくる。でも、外務省は縦割りの外交をやっている。本当は、国益という観点から外務省が全体を考えて、省庁間の調整を図る、あるいは特定の省庁に対してそれはだめだと言う。そういう機能がなくなっている。私は外務省にしっかりしろと言っているんだけど、なかなか直らない。

そういう意味では、田中眞紀子さんが外務省改革をやりようとしたのは当然のこと。ただ、間違えたのは、今の時代は男が弱くて女が強いことから、男をいじめちゃいかん。逆にかわいがってやらないと(笑)。その手法を間違えたんだ。

**工藤** その田中さんも外交をやっていなかったという批判があります。

**亀井** そんなことを言えば、みんなそうだよ。別に外交専門家じゃないんだから。それに外交は別に専門家がやるものではない。外交とは何かといたら常識ですよ。国際協調という前提のなかで、いかに国益を実現していくか。元大使で外交通だから、それができるのかといたら、そういう話じゃない。そういう意味では、外交の専門家なんてどこにも存在しない。

世界は時々刻々と変わり、状況は常に変化している。世界経済も変われば、社会も、軍事情勢もすべて変わっていく。そのなかで、国際協調と国益を縦軸と横軸にして、どう答えを出していくかという話でしょう。

**工藤** 今の日本の外交は、そういう形になっていませんね。

**亀井** なっていない。アフガン問題のときだって、小泉総理がパキスタンに行けと言ったら、田中さんが拒否してしまって、逆に田中さんが国際会議に行きたいと言うと今度は政府が行かせなかったり。あるいは、海上自衛隊が総理官邸の知らないうちに横須賀から自衛艦を動かしてみたり。こんなの国家じゃない。

#### **日本は議院内閣制。**

#### **政党を無視すれば独裁政治になる**

**工藤** 内閣支持率の急落で日本では結局、構造改革が進まないんじゃないかと、マーケットは懸念しています。そこで問われるのが、首相のリーダーシップとか、議院内閣制とは何かといった問題です。イギリス式がすべていいとは言いませんが、発言力のある国会議員は内閣に入って、そこで官僚に指示を出すのらわかりますけど、表に出ないところで議員が役所にあれこれ言っていたのでは、政府の舵取りが難しくなってしまうのではないかと。

**亀井** そんなことはないよ。政治とは憲法で決めている仕組みに従ってやらなきゃいけない。議院内閣制というのは、原則として議員のなかから行政の長を選ぶことになっている。今の政府は必ずしもそうになっていないわけだけれどもね。選ばれた行政の長に対して、議会が法案に賛成する、反対するという形で国会で意思表示をする。そういう形のな

かで実際の政治が行われていく。これが憲法の仕組みなのに、仕組みどおりにやるのがいけないというのは、そっちのほうがおかしい話でしょう。

だから、議院内閣制の下においては、行政の大臣なり政務官が選ばれたら、それでおしまいではない。首相に選ばれたんだから、議員は文句を言うな、口出しするなというのはおかしい話です。議院内閣制は政党政治なわけだから、首相や大臣を送り出した党は責任がある。行政府のやろうとすることに対して、国会で議論する前にいろいろアドバイスをするとするのは当たり前の話でしょう。

**工藤** 確かにそのとおりのかもしれませんが、世界がすさまじいスピードで変化し、それに対してすばやく対応しなければならないなかで、内閣が党の意向に縛られているようなシステムは機能しないのではないのでしょうか。

**亀井** そんなことを言い出したら、独裁国家が一番スピーディだということになる。独裁よりも、民意を吸い上げて、国民が納得するなかで政治をやるべきだというのが今の民主主義です。民主主義国家のメリット、デメリットはいろいろあるかもしれないが、少々スローモーになったってしょうがないのじゃないの。

**工藤** なかなか難しいところですね。

**亀井** 小泉さんが1から10まで決めて、政党や議会は関係ないという独裁政治がいいのかといったら、よくないことは歴史上証明されてしまったわけだよ。私も自民党政務調査会長のときや、建設大臣、運輸大臣のときも、

世間から見たらむちゃなことばかりやって批判も受けたれどもね。

私はむちゃと言われるような強引なこともやったけど、決断を下す前にみんなで議論させた。徹底的に議論をさせたうえで、結論については私が判断した。たとえ議論の場で大勢を占めた意見であっても、間違いは間違いだと。介護保険導入やペイオフ延期を決めた場合もそうですよ。党内の議論の99%は私にノーと言っていたが、逆のことを決めてしまった。だけど、最終的には党も納得したわけだ。リーダーシップというのは、バランスの問題なんだよ。

**工藤** 亀井さんはかつて、自民党のなかで議論を通じて国会議員を鍛えて、そこで能力の上昇した議員を政府に派遣したいとおっしゃっていましたね。それが政治主導の本来の姿だと。

それに対して、今、小泉さんがやろうとしているのは首相主導。亀井さんが政調会長だったときにも、党に残らずに内閣に入っていれば、小泉さんのイメージに近い形になっていたんじゃないですか。

**亀井** それが違いますよ。まず、今の政府について言えば、大臣も内閣府も民間人ばかり集めてやろうとしている。自民党の国会議員の中から集めてやるなら、まだ話はわかる。

それを民間人で勝手なことをやろうとしたって、やれっこない。改革だって中身はゼロだ。政府と与党は相互牽制機能をもって、ある程度緊張感のあるなかでやったほうがいいんですよ。

日本は政党政治があるべき姿だということまでこれまでやってきた。それはだめだ、政府

が何でも決めるようにしちゃえというのなら、まず憲法を変えなきゃいけない。それはできないでしょう。

であれば、今の仕組みのなかでどれだけの政治をやるかということですから、小泉さんは党の意見をもっと聞かなきゃいけない。

**工藤** 政府が国会に法案を提出する前に与党が審査する、いわゆる事前審査制度を廃止すべきだという意見があります。

**亀井** ばかなことを言っちゃいけない。さっき言ったように日本は政党政治なのだから、国会で法案を通すには政党が責任をもつわけでしょう。国会運営は政党単位になっているんだから、政党が責任をもたない法案なんて出せない。したがって、各省庁が出す法案について政党が事前にチェックして、修正すべき点は修正しろ、そのうえで、国会での法案通過については政党が責任をもつ。当たり前の話です。そんな当たり前のことが今さら紙面で問題になるということは、それほど今のマスコミが墮落しているということだ。

**工藤** 事前審査があるから議院内閣制がちゃんと機能しているよ。

**亀井** 与党の事前審査をすっ飛ばして、通るか通らないかわからないけど、政府が勝手に法案を出すというなら、どうぞ自由にやってくださいということだ。自民党だって反対するかもしれませんよ。それでいいということなら別に文句はない。

でも本当にそこまでの覚悟があるのか。そういうできもしないことを、あまり言わないほうがいい。国民は森（喜朗前首相）さん

や亀井に任せておくと、今までどおりのチマチマした政治をやって、経済成長率も1%程度だ、自分たちの生活もそんなにがらりと変わらない。小泉さんは改革、改革と言っているから、おそらく目の覚めるようなことをやって、自分たちの生活をがらりと変えてくれるんじゃないか、国民はそういう奇跡を小泉さんに求めた。

ところが小泉さん実際に現実を動かすことをやっていない。現実を動かすことをやるのが本当の奇跡。ところが、小泉さんがやっていることでは現実には動かない。国民の一部はそれを奇跡と勘違いしてしまっている

#### 財政出動で総需要を喚起するしかない

**工藤** 経済の問題についてですが、今のままでは、近いうちにかなり厳しい局面が訪れそうです。

**亀井** だから、それは当たり前のことですよ。今さら何も驚くことはない。私は去年の4月に自民党総裁選に立候補したときから言っていた。このままでは日本の経済はだめになると。経済が自力で反転する要素がないのに、政府が財政出動してはいかんと言うのだから。混合経済の日本で、民がだめになっているときに、官が財政出動してはだめだといって手足を縛ったら、経済が自力で元気になるはずがない。子供でもわかる。だからこういうことになった。まあ、小泉さんも最初から株価は下がるといっていたけどね。

**工藤** しかし、日経平均株価が1万円を割れて、9000円割れになってもおかしくないという今の局面までは想定していなかったでしょ

うね。

**亀井** 経済がマイナス成長に入るということを時の総理が言っていたら、株を買う人はだれもいませんよ。

**工藤** 2月17日にプッシュ米大統領が来日します。今、日本経済がこけると世界的にも厳しいわけですが、アメリカはなんらかの打開策を求めてくるのではないのでしょうか。

**亀井** これまでのアメリカの（対日）経済外交は、不良債権の直接処理を急げと言い続けてきた。それには当然、アメリカの国益も含まれていて、アメリカ系のファンド、いわゆる「ハゲタカ・ファンド」（倒産した企業や資産価値の下落した不動産など）にえさをどんどん出せというプレッシャーでもあった。宮崎のシーガイアなんかがそのいい例ですけどね。もともと1000億円の価値があったものを100億円ぐらいで買ったりして、外資系ファンドが資産をどんどん仕込んだ。

ところが、今仕込んだだけで、さばけない状態になっている。10億円で買ったものを100億円で売って、初めて90億円の利益が出るという計算になるんだけど、今の景気ではさばきようがない。

だから今度、アメリカが要求してくることは目に見えている。日本の借金が増えたって構わないから、どんどん（財政出動して）景気対策をやれという注文が来ますよ。

**工藤** でなければ、もうアメリカはもう日本を見放す……。

**亀井** 1見放すといったって、アメリカとし

ても日本の市場がこれ以上冷えたら、困るでしょう。かといって、アメリカにだって日本を助ける方法はない。だから、それは日本がやる以外にない。

**工藤** 2、3月に日本経済が重大な局面を迎えることは間違いない状況なんですけど、政府として打つ手はあるのでしょうか。

**亀井** それは、私に聞かないで小泉さんに聞いてください。国民は小泉はマル、亀井はバツと判断したんだから。民主主義だからそれはどうしようもない。亀井静香が、「この手がある、あの手がある」と言ったって、だれも使わないんだからしようがない。

マルクスの言っている言葉のなかで「下部構造が上部構造を決める」というのは真理だろうね。民のかまどに煙が立たないのに、おみこし担いで祭りをやれと言ったって無理なんですよ。

**工藤** でも、政治家は日本のためにどうしようかと常に考えているものではないか。

**亀井** 考えているけれども、民主主義国家なんだから、民意を無視しては何もできない。やる手はいくらでもあるんだけどね。

今の日本は笛吹き童子のあやしい音色に引かれて、ネズミの大群が海の中へどんどん飛び込んでいく（ハメルンの笛吹きと）、同じような状況が起きているんですよ。

基本は日本経済を躍動させることよ。それをしないで、何をやれと言ったって無理です。総需要政策はもう限界だ、やったって効果がないという人もいるけれども、供給をいくらカットしてみたところで、需要を喚起しない

かぎりには新しいビジネスは出てきません。

**工藤** つまり亀井さんは、やはり総需要政策をやらざるをえないというご意見ですね。

**亀井** 無駄な公共投資はやらないにしても、(財政支出の)材料はいくらでもある。社会资本だって欧米先進国に比べれば、日本はまだまだ未整備。地方に行けば、下水道の普及率は80%に届かない。開かずの踏切が東京と大阪でどれだけあると思いますか。1000カ所ですよ。1時間のうち20分しか開いていないような踏み切りがあるんだから。そういうところを立体交差にするのが、無駄な公共事業ですか。ごみ処理場だって全然足りない。そんなことは、やればいくらでもある。

**工藤** 確かにありますよね。

**亀井** 私は、(政調会長当時に)223件、合計2兆8000億円の公共事業計画をバサッと切った。そんな政治家がいますか。道路公園だって、それまでファミリー企業がコバンザメみたいにくっついて随意契約で太りに太っていたから、建設大臣のときに全部競争入札にさせた。こういうのを改革と言うんですよ。

**工藤** 特殊法人改革は原則、廃止または民営化ということになっていますね。

**亀井** 何でも民営化すればいいというものではない。今、小さな政府と言いながら、(公的資本注入で)銀行を国有化しようとしている。結局、きれいごとを言ったって、公的な関与をなくするわけにいかないんです。民間の力が弱っているときには、官が出ていって

大仕事をしなきゃいけない。橋本(龍太郎)さんが総理のときに財政再建路線に走って、景気が落ち込んで、その後の景気対策で結局、100兆円かかったでしょう。だけど橋本さんは偉い。「我過てり」と認めて、政策転換をやった。それが政治家です。小泉さんだって神様じゃないのはみんなわかっているのだから、無理しないで「間違えた」と言えばいい。「過ちを改むるに、はばかりることなかれ」ですよ。

**工藤** 小泉改革のどこがおかしいと？

**亀井** 中身がないじゃないですか。私のことをマスコミは抵抗勢力だと言うけど、改革に抵抗なんかしていませんよ。だって、中身がないのだから抵抗のしようがない。ただ、景気を悪くすることには抵抗している。そういう意味では抵抗勢力かもしれない。

**工藤** どうもありがとうございました。

(聞き手は工藤泰志・言論NPO代表)